

## Diving in Ambon

期間：2008年10/3～10/9

インドネシアでダイビングと言えばワイドなメナド、マクロのレンベなどは知られているものの、私が訪れた「アンボン」を知っている人はかなり“通”だと思う。そんな通が訪れるアンボンはワイドもマクロもどちらも楽しめるお得な場所。そんなアンボンを期待半分、不安半分で探検してきました。

アンボンについて - インドネシア東部、セラム島の南西に位置する島。かつて香辛料の貿易で栄えた島。一時は、宗教紛争などがあり、観光客が遠のいていたが徐々に戻りつつある。

行き方 - ガルーダインドネシア航空で成田からデンパサールを経由して約9時間のフライトでジャカルタへ。その後ライオンエアーという国内線を利用し、約3時間のフライトで早朝アンボンへ到着。

ダイビングサービス - 空港から車で約1時間のところにある、『マルク・ダイバーズ』を利用。



<マルク・ダイバーズ>



<アンボン全体図>

10月4日(土) ダイビング1本目

早朝にアンボンに到着ということで睡眠を取ってから1本目開始。

ダイビング1本目は、ダイビングセンターからスピードボートで約15分の『Mahia Point』というポイント。ここはエントリーするとドロップオフになっていて壁沿いを進む形。透明度があまり良くなかったので海底まで見えないけど、35mぐらいらしい。ここでは中層を泳ぎナポレオンやバラクーダの群れを観察。今の時期は、まだシーズン本番では無いので、バラクーダの数もそれほど多くは無い。その後、壁沿いにあるソフトコーラルを観察しながらコーラルシュリンプやウミウシなどを観察。透明度はよく無かったけど魚の種類の多さと言ひ、数と言ひ、1本目から感動。今回の収穫は、70cmぐらいのタイマイを真横で見れたこととムスジコショウダイの幼魚に出会えた事。黒地に白の点がある小さな魚で、お尻をフリフリしながら泳いでいたというか、波に揺れていた。「なんだ？この生き物は？」とずっと見ていたので、ガイドがエキジット後に教えてくれた。

エントリー 14:50 / エキジット 15:50 / 潜水時間 60分

ダイビング2本目

本日の2本目は『Depan Tupa』というポイント。ダイビングセンターからは、5分ぐらい。

ここもドロップオフ。と言うかアンボンの湾外は基本的に、バンダ海に面した外洋になっているのでダイナミックなダイビングが出来る。ここでは、親子らしきナポレオンが3匹、優雅に前を通過していった。そしてヨスジフエダイと思われる群れが。その後ウメイロモドキやアカモンガラの大群が気持ち悪いぐらいに途切れることなく続く。水温は28度前後で流れはほとんど無く、5mmのウェットで充分温かったけど、現地ガイドは慣れているので少し寒いと言っていた。透明度は、あまり良くなく、多分8~10mぐらい。

ダイビング初日は、睡眠不足と疲労もあったのでチェックダイブを兼ねた2本で終了。

エントリー 17:04 / エキジット 17:56 / 潜水時間 52分

10月5日(日)

アンボン2日目。昨日のダイビングで、アンボンでのダイビングに期待出来たので今日もどんなダイビングが出来るのか楽しみで朝食の時間よりも少し早く起きて、朝のお散歩。

昨日は穏やかだった海も、昨日の夜に2,3回豪雨(?)があったので、今日はちょっと海が荒れている。

#### ダイビング1本目

アンボンでのダイビング2日目。1本目のポイントは、『Tanjung Hukurila』というポイント。

ダイビングセンターからスピードボートで約25分。ダイビングを始めて間もない私が、ずっと見たかったピグミーシーホースをリクエスト。そして選んでくれたポイントはピグミーポイント！ピグミーが見れるとワクワクしながらエントリー。傾斜のある壁をゆっくり降りていくと、32m ぐらいの所にガイドがピグミーを発見！！私以外みんなカメラを持っていたので、先に見せてもらう。小さいとは聞いていたけど、本当に小さい。最初は指を指されても珊瑚なのかピグミーなのか分からない。根気強く見つめているとその先に2体居たので何とか見つける事が出来た。でもどちらもサイズは3cm弱。その後、一緒に潜ったマネージャーが見せてくれたのはシノビロウミウシだと思われるウミウシ。その後もマクロ好きな人達が色々なマクロ系生物を入れ替わり教えてくれた。



本来、大物が出るはずのポイントなのだが、今回は運が悪かったようで大物には出会えず・・・。

エントリー 9:39 / エキジット 10:42 / 潜水時間 63分

#### ダイビング2本目

2本目は、『Pintu Kota』というポイント。ここには10m近いアーチがあり、高さも10m~15mぐらいある地形ポイント。アーチは、すっぽり海中に収まっているのでボートの上からは分からない。

エントリーして、ほぼ真下に降りていくと水面からは見えなかったアーチが出てくる。昨日よりも透明度が良く、日差しも出ていたので写真を撮るには最高。アーチの中に入るとすぐにウメイロモドキやヨスジフエダイが上から下へと行ったり来たり。その後、巨大なイソマグロが2匹。小さな魚の群れを目掛け、ハンティングしている光景は圧巻。そして浅場で毎度のことながらマクロ散策。

今回の収穫は、ギンポ！穴から顔を出したギンポが日本とかで出会うと人の気配ですぐに姿を隠すのに、このギンポは全然隠れない。隠れないどころか少しギンポの視界から遠ざかるとニョキッと出てきてキョロキョロしている。ダイバーが比較的少ない海だからか警戒心が無いのだろう。

エントリー 11:58 / エキジット 12:50 / 潜水時間 52分

#### ダイビング3本目

そして本日ラストの3本目のポイントはというと、ダイビングセンター前の『Depan Namalatu』というポイント。3本目ともなると透明度は、悪く10mぐらい。それでもダイビングセンターに向けスロープになっている岩場にはお花畑のようなソフトコーラルが一面。色とりどりの珊瑚やらイソギンチャクの間に隠れてカクレクマノミやハナビラクマノミのファミリーが一生懸命子供たちを守ってる。その脇に丸くなった緑色のイソギンチャク



とカクレクマノミ、それにイソギンチャクエビなどが居て、とても絵になる。そして、10cm以上あるウミウシがあちらこちらに。それにしても浅場付近には相変わらずアカモンガラの大群がこれでもかというぐらい群れている。少し気持ち悪いが、今まで見たことの無い数なので、目に焼き付けておこう。

エントリー 14:36 / エキジット 15:39 / 潜水時間 63分



10月6日(月)

昨日、一昨日と大物、ドロップオフ、地形を楽しんだので、今日は趣向を変えてマック(泥地)ダイビング。とすることで、新種のカエルアンコウを発見したローカルガイドと一緒に、泥地へ!

#### ダイビング1本目

本日1本目は、空港に近い湾内にある『Laha』という泥地のポイント。ダイビングセンターからは、ボートで約25分。行く途中に湾内を横切るイルカを目撃。そしてポイントに着くとおびただしい数の漂流ゴミ。ポイントのすぐ側では住民が生活しているので、その生活ゴミが海に捨てられている模様。ここに入るの?とためらいながら、海の中がどうなっているかは入って見ないと分からないということでダイビング開始。ここは緩やかな泥地のスロープを下降していくスタイル。気をつけないとすぐに35mぐらいまで行ってしまう。そして、ここの透明度は5mあるかないかでガイドとはぐれないよう視界に入る距離を泳ぐことに。35m付近まで来た時に、ムラサキ色のキレイなパープルリノピアスに遭遇。グレーな泥地に、パッと目に飛び込む紫色。かなりの至近距離まで行って、見入るもののダイブコンピューターが気になるので、徐々に上昇。オランダ人カメラマンは、もう少し写真を撮ると言うので私たちは先に別のチームを探しに行くことに。水深3mぐらいのところ



で別のカメラマンが写真を撮っていて、その側にいたローカルガイドが私のガイドを見つけ熱い抱擁とキス。エントリーしてすぐにリクエスト通り、新種のカエルアンコウを発見したのだ。今年の初めに発見されてからも、あまり見かける頻度は多くない、このカエルアンコウを見つけ、彼らのミッションは早々に達成されたのでした!私も見せてもらったが、意外と小さく、色も赤いような茶色いような縞々で、かなり地味。さっき見たパープルリノピアスの方が泥地とのコントラストは良いのと思ってしまう。素人だなあ~。オランダ人カメラマンも合流し、みんなで撮影会になったので、私ともう1人のガイドは停泊している船の下まで行くことに。タイヤやらお鍋やら生活用品が捨てられているけど、そこを魚達が棲家になっているので、色んな種類のうつぼやエビ、それにウミウシを一箇所で見る事が出来る。それらを抜けると漁師達が捨てた魚達が一面に見えてくる。スロープの上のほうから下のほうまで魚の死骸だらけ。魚の墓地みたいな感じで少し気持ち悪い。その先に見せたいものがあつたらしいが、あまりの視界の悪さにガイドも諦めて船の下あたりで元の場所まで戻ること。その途中で、ツバメウオの大群に遭遇。多分20枚以上は居たと思う。ツバメウオが苦手な私は素通り。そしてその後には、日差しを遮るぐらいのカタクチイワシの大群が通過し、周りを取り囲まれた時には、なんとも言えない不思議な感覚に。宇宙空間にいるような、本当に不思議な感覚でした。

エントリー 9:52 / エキジット 10:54 / 潜水時間 62分

#### ダイビング2本目

2本目は、Laha から少し南西に移動したところにある『Aer Manis』というポイント。すぐ裏が空港になっているポイント。ここは貿易船が出入りするピアがあるので、その船の下を目指す。Laha に比べて、そこまで泥っぽさはないけど緩やかなスロープがどこまでも続くのは同じ。透明度は相変わらず悪いけど、日差しが1本目よりも強くなってきたので浅瀬はキレイ。エントリーしてすぐに、カツオの大群に遭遇。すぐにカメラマン



がカメラを回し、そしてご満悦の表情。その後、黒と白のニシキフライウオ、タテジマキンチャクダイやアカククリの幼魚、5匹のミノカサゴと白のハダカハオコセが一つの岩に集結している光景、よく目を凝らさないとなんか分からないイボイソバナガニなど、色んな生物をゆっくり時間をかけて観察。

エントリー 12:43 / エキジット 13:39 / 潜水時間 56分

#### ダイビング3本目

本日の3本目は、『Laha 』に、また戻って参りました。今回も1本目で見つけたカエルアンコウをまだまだ見たいという要望に応えてのダイビング。しかし私はガイドと一緒に普通のインドネシアンサイズのカエルアンコウを見に行くことに。1本目で潜った魚の死骸エリアを抜けていくと、居ました！2つの大きな塊が。15cm ぐらいはあるだろう、黒いカエルアンコウ。予想外の大きさに指示棒の先の目標物を、なかなか判定できず。インドネシアの平均サイズは、15~20cm ぐらいと巨大サイズらしい。本当、豊かな海の証拠ですね。それ以外には、ヘコアユの群れに白いカミソリウオ、気持ち悪いぐらい大量のゴンズイの塊。そしてエキジット間際に15cm ぐらいのツツノオトシゴなどを観察し大小ともに制覇。

エントリー 15:19 / エキジット 16:26 / 潜水時間 67分

#### ダイビング4本目

一度ダイビングセンターへ戻り4本目まで少し休憩。昨日サンセットダイビングが出来なかったので、今日は気合を入れて決行。ポイントはダイビングセンターの前の『Depan Namalatu』。昨日の3本目で潜ったポイントと同じですが、暗闇の中なので全く違う雰囲気を感じていました。エントリーすると徐々に辺りが暗くなり、10分もすると真っ暗に。このダイビングだけ唯一のビーチエントリー。ポートダイビングも出来るのだが、私一人だったのでビーチからエントリーすることに。ここではロブスターや大きな蟹が元気良く動き回っていた。そして岩の下の隙間からは、60cm ぐらいあるハリセンボンが登場。最初は大きくて尾びれだけが見えたのでサメだと思ったけど、正面を向いたら何とも可愛い愛嬌のある顔が。そしてエキジットすると、雲一つない空に月と満天の星空が。月の光で眩しかったけど、それでも星の数の多さが分かるぐらいキレイだった。アンボン3日目にして、アンボンですずっと潜っていたい！そんな気持ちでいっぱいになるぐらい満足のいったダイビングが出来ました。4本目は、お腹が空いたので早めにエキジット。

エントリー 18:50 / エキジット 19:26 / 潜水時間 36分

10月7日(火)

本日がアンボンでのダイビングの最終日。昨日の話では、かなり流れのあるポイントに行くと言うことだったが、キャプテンの判断で流れが非常に強い上に何も出ないだろうと言う判断でポイント変更。

#### ダイビング1本目

本日の1本目は、『Hukurila Cave』というポイント。ここはCave というかHall というか、とにかく地形ポイント。エントリーしてすぐに真下に潜行。Hall を降りて行きCaveへと続くと言った感じ。透明度も日に日に良くなり、本日は滞在中で一番の透明度&日差し。それでも、まだ15m~20mあるかないか。Cave を抜け下からCave を見上げるようにした光景はダイナミックそのもの。Cave の中から外から、右から左からフュージラー系の魚やらウメイロモドギやらの群れが途切れない。その後、岩場の間を探索したり、浅瀬を探索したりとまったりダイブ。岩肌がオレンジ色のハナダイ系に覆われ、一体がオレンジ色の場所がいくつもあったり、その合間にハタタテハゼやネジリンボウが5匹ぐらい纏まっていたり、公家みtainな顔のシテンヤッコがいたり盛りだくさんな内容。こんなにカラフルな海なら、カメラを持ってくればと後悔の嵐。



そして1本目と2本目の休憩の間、ボートの近くで小魚がバシャバシャしながら移動をしている。それを追うようにしてカツオがあちらこちらでハイジャンプ。海の中でも、上でも楽しめるバンダ海は、何が起こるか分からないから、楽しい！

エントリー 9:44 / エキジット 10:43 / 潜水時間 59分

#### ダイビング2本目

本当に本当にアンボンでのラストダイブ。ポイントは『Kilang』というポイント。1本目から少し南西に移動したポイント。やはり最後もナイスウォール！攻め。透明度は良くなく、濁りのある中潜行。25mぐらいの所にキレイな珊瑚があるので見ていると、そこに巨大なイカがヒラヒラしながらも、ほとんど動くことなく留まっている。サイズにしたら40cm以上はあったと思う。その後、特に何も出ないなあと思っていたら暗闇から突如サワラのハンティング開始。今回は、まったりダイブが多かったのでハンティングの光景が見れると少し嬉しい。あとは、いつものように浅瀬を流しながらエキジットして終了。

エントリー 12:07 / エキジット 13:09 / 潜水時間 62分



昨日のダイビングが濃い内容だっただけに、ラストダイブにしては、ちょっと物足りない感があったけど、明日のフライトが早朝なので本日はここまで。最終日と言うことで、2本目終わりに、近くのローカルビーチでランチ。名前のないビーチだけど、みんなで砂がキラキラ光っているからと、ゴールデンビーチと勝手に名前をつけました。ランチは基本的に船上だけど、滞在中にはビーチでランチが出来ることも！！

ダイビングを終えてみて思ったことは、滞在中に見た珊瑚を含む全ての生物が元気で生き生きしていること。メナドのワイドモレンベのマクロも、アンボン一ヶ所で充分楽しめるエリアなだけに、次回は絶対にカメラを持って、戻って来たいと思いました。



最後に、アンボンは外務省から「渡航の是非を検討してください」と勧告が出ているエリアですが、実際に行った感想は、台風などの被害の跡が依然残っているものの、みんな前向きで明るい。

ダイビング三昧で市の中心部に出ることは無かったけど、少なくともダイビングショップやリゾート周辺の住民はすれ違うと挨拶をしてくれるし、笑顔を絶やさない、そんな平和な港町の風景だった。市の中心地は人とバイクで溢れて活気に満ちているものの、ポートから眺める景色はジュラシックパークさながらの手付かずの自然が残るアンボン。

人に教えたいようで教えたくない場所が、また1つ私の中に増えた旅でした。